



ぷっくりハート推進事業 伊野南小公開授業

11月10日(水)に、伊野南小学校の公開授業と学校版寺子屋を行いました。教育長や議員、他の学校から15名の参加者がありました。第3学年で授業を公開しました。



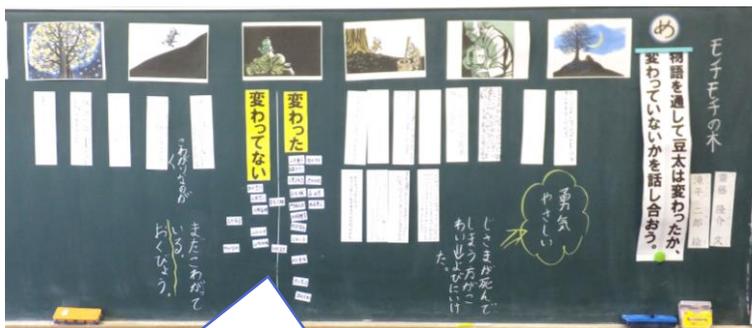
公開授業 第3学年 国語科「モチモチの木」

この授業は、物語文を場面ごとに読み取っていくのではなく、全文を通読した後で「中心人物である豆太は変わったか、変わっていないか」について話し合わせるという単元構成をしていました。本時はその話し合いの場面でした。

前時までに児童は「変わった」「変わっていない」と立場を決めており、本時はその理由を考えるとところから始まりました。まず、児童は短冊に自分の意見の根拠を書き、隣同士や自由な立ち歩きでのペアになり意見を交流しました。

次に、「変わっていない」と思う児童一人一人に理由を聞き、その根拠がどの叙述から分かるのかを本文から見つけさせました。それから、反対意見の児童にも理由やその根拠を聞きました。

それぞれの立場の意見を聞いた後、授業者の矢野教諭は「友達の意見を聞いて考えが変わった人はいますか」と問い、考えが変わった児童は黒板に貼っていたネームプレート動かして意思表示をしました。



児童はネームプレートで意思表示をしていました。



先生は意見が変わった児童を認めていました。

矢野教諭より



今までは物語文を場面ごとに読み取っていましたが、子どもたちは何度も読んでマンネリ化していたと思います。今回は大きいイメージのところから読み取らせたいと思い、この単元計画に挑戦しました。全体的に子どもたちはこの物語文をよく読んでいましたが、一部の読めていない子が置いていかれてしまいました。一部の子もだけでなく、みんなが活躍できる授業を作っていきたいです。

研究協議

- 短冊を使って児童に意見をを持たせていたのが良かった。
- 書いていない人は友達の見意見を写させてはどうか。
- 良い発言をしている児童がいたので、先生が評価を入れてあげると、その行動が広がるのではないか。
- もっと児童を動かす授業展開を考える必要がある。

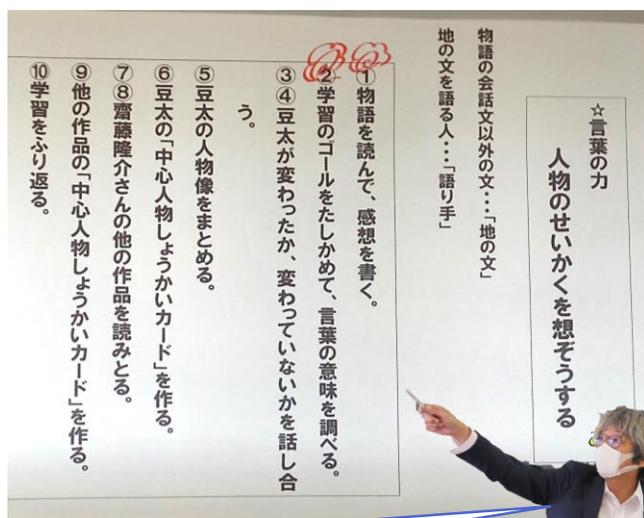


学校版寺子屋「少人数による話し合いの授業の成立について」

○授業の講評

普通は、一場面、二場面、三場面…と場面ごとに読み取りをしていくと思いますが、子どもたちは授業に飽きてしまいます。物語は1回読めば大体のストーリーはわかります。子どもは場面ごとに叙述を読み取った場合でも、本質的な質問をすると結局分からない、ということがあります。

今回の提案授業では、第一次で本文全体を何度も通読させ、第二次では物語の本質的な内容を発問しました。



大胆な単元構成に挑戦したことに価値があります。

①ノート、教科書をフル活用

研究授業等で短冊に書いたり、教科書をコピーして子どもに持たせたりしていますが、なぜですか？短冊に意見を書かせた場合、意見1つしか書けません。ノートならたくさん書けます。

②話し合いの目的は「意見を絞る」だけじゃない

話し合う目的は何ですか。チームで多面的に考え、沢山の意見を出し合うことですか、意見を1つに絞ることですか。活動の目的をはっきりさせましょう。チームで集まれば、話し合えるので、分からなかった子も発言できます。

③意見は(仮)だから変わっていい

子どもの意見は(仮)であり、その意見は変わっても構わないし、変わることが楽しいのだということを教師は子どもに伝えましょう。そして、意見が変わったことに対して、教師が一番喜びましょう。

④子どもを関わらせる工夫

子どもの発言が聞き取りにくかった場合、「〇〇さんが言ったこと、隣同士で確認しましょう」のように、より多くの子どもを関わらせる働きかけをしましょう。

⑤どうほめるか

子ども同士の学び合いにおいて、誰の、どんなところを、どういう言葉でほめるのかを意識しましょう。

おわりに

伊野南小学校では、公開授業当日のために何度も模擬授業や事前研修を重ねたそうです。チーム伊野南小で取り組んだ公開授業でした。伊野南小学校の皆様、ありがとうございました。

学校版寺子屋は、各学校のニーズに応じて公開授業と関連させた講話を行っています。お忙しいと思いますが、できるだけ授業から参加をしていただくと、より内容が深まります。